損保ジャパン記念財団 NEWs

SOMPO JAPAN FOUNDATION

- ●自動車購入費助成　助成先の決定
- ●NPO基盤強化資金助成の募集
- ●海外助成の募集
- ●第13回損保ジャパン記念財団賞の講演会・シンポジウムを開催　など

発行者
公益財団法人損保ジャパン記念財団
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 損保ジャパン本社ビル　TEL：03-3349-9570　FAX：03-5322-5257
http://www.sj-foundation.org/　Eメール：sjf3340@sj-foundation.org

2012 Vol. 2

自動車購入費助成　助成先の決定

2012年度自動車購入費助成金として、障害者に対する福祉活動などを行う11団体を対象に、合計約1,070万円の助成を行いました。自動車購入費助成は、障害者に対する福祉活動を行う団体にとってニーズの高い自動車購入の資金を支援する事業です。今年度は、助成する福祉団体の募集対象を西日本地区（近畿、中国、四国、九州･沖縄地区）として、2012年6月から7月にかけて公募したところ、131件の応募をいただき、11団体への助成を行いました。損保ジャパン記念財団では、1999年から自動車購入費助成を開始し、昨年度までの13年間で、助成先は累計133団体、助成額は合計約1.3億円となっています。
助成先は以下のとおりです。

2012年度自動車購入費助成　助成先一覧

都道府県	団体名	代表者（敬称略）	助成金額（予定）
兵庫県	特定非営利活動法人　いちばん星	山口　勇樹	70万円
奈良県	特定非営利活動法人　Ｍｓねっと	北島　真理	100万円
奈良県	特定非営利活動法人　地域密着型相談センター　とまり木	山村　悦子	100万円
岡山県	特定非営利活動法人　津山市障害者福祉協会	藤田　勉	100万円
広島県	特定非営利活動法人　みどり	高畑　長吉	100万円
広島県	特定非営利活動法人　神辺育成会	瀬良　京子	100万円
愛媛県	特定非営利活動法人　今人倶楽部	鈴木　太	100万円
高知県	特定非営利活動法人　まあるい心ちゃれんじどの応援団	吉川　清志	100万円
熊本県	特定非営利活動法人　宇城きぼうの家	右山　剛	99.3万円
大分県	社会福祉法人　ぴぃたぁパンの家	中村　剛敏	100万円
沖縄県	特定非営利活動法人　障害児・者の問題行動支援センター	宇地原　茂	100万円


今人倶楽部（愛媛県）


ぴぃたぁパンの家（大分県）


まぁるい心ちゃれんじど（高知県）

助成金の贈呈式は、損保ジャパンの各地区本部または支店で開催されています。



ぴぃたぁパンの家のみなさんと（大分県日田市）



車購入費の百万円
日田の施設に助成
損保ジャパン

「損保ジャパン記念財団」と「損保ジャパン」は日田市石井の社会福祉法人「ぴぃたぁパンの家」（中村剛敏理事長）に自動車購入費として100万円を助成し、同施設で贈呈式があった。損保ジャパンの柳原伸二大分支店長が「地域の発展に尽くしてください」とあいさつし、贈呈書を手渡した。中村理事長や同施設利用者が「本当に感謝しています。大切に使わせていただきます」と謝辞を述べた。

同施設では、7月の大分県豪雨で移動販売用の軽自動車2台が水没。職員の車を代車にするなどしていたという。助成で新たに軽自動車1台を購入した。

同財団は1999年から福祉活動への助成をしており、県内ではこれまで8団体に計6100万円を贈っている。

☆贈呈式の様子は『大分合同新聞』に掲載されました

損保ジャパン大分支店長席・職員の感想

サービスセンター（保険金をお支払いする部署）から異動してきたばかりで、初の社外に出向いての業務でした。今回、贈呈式に参加して最も勉強になったことは、会社が地域や社会とどのよう繋がっていて、どのように関わっていこうとしているのかを知ることが出来たことです。「保険」が相互扶助により成立しているように、企業も地域との関わりの中で成立していることが実感できました。地域の皆さんが活動している現場に行かなければわからないことや、経験できないことに触れ、人間的にも視野が広がる良い機会になりました。贈呈式も無事に終了してよかったです。



朝礼に参加。コーヒーの香りが漂っています。



まあるい心ちゃれんじどのみなさんと（高知県高知市）
☆贈呈式の様子は『高知新聞』に掲載されました

損保ジャパン高知支店長席・職員より

贈呈式は、バリアフリーに配慮された新築の施設で、お菓子の甘い香りにつつまれて行われました。この団体は、障害のある方が菓子の製造･販売を通じて自立した生活が送れるよう支援しており、梨のジャムを高知市内の学校給食にも提供しています。贈呈式では、副理事長が「助成金で購入した車両を使って、パンやお菓子の販路拡大につとめます。」とご挨拶されました。新社屋で製造能力が大きく増え、助成金で購入された車が活躍することにより、より多くの障害の有る方の就業につながるように願っています。

損保ジャパン愛媛支店長席より

贈呈式では、今人倶楽部ご自慢のシフォンケーキを参加者がいただきました。損保ジャパン愛媛支店新居浜支社長深谷さんの「パンやクッキーの販売にも協力させていただきます。」との言葉に、利用者の皆様から笑顔がこぼれました。後日、今人倶楽部から「贈呈車の乗り心地がよく、快適に利用しています」とのうれしい言葉が支社の担当者に届きました。
☆贈呈式の様子は、テレビ愛媛の夕方のニュースで紹介されました。



今人倶楽部
（愛媛県四国中央市・贈呈書をお渡ししました。）

NPO基盤強化資金助成の募集を実施


カフェ開業資金を支援。接客の練習中です。

10月9日から11月16日までの期間、2012年度「NPO基盤強化資金」助成先を募集しました。
助成金額は１件あたり100万円を上限とし、総額1, 500万円の助成を予定しています。
今年度は東日本大震災の被災地復興支援を考慮し、東北地区および関東地区（除く東京都）の社会福祉分野で活動するNPOを対象としています。
2012年12月に開催予定の選考委員会において助成先を決定する予定です。

１．NPO基盤強化資金助成の概要
NPOの活動基盤強化につながる「組織の強化」と「事業活動の強化」に必要な資金を助成する制度です。地域福祉を支えるNPOが組織力を強化し、地域での信頼性を向上させ、地域に根付いた持続的な事業活動ができるよう支援していくことを目的としています。

２．募集要項
＜１＞対象となる団体
以下の条件をすべて満たす団体が募集対象です。
（１）募集地域
東北地区、関東地区（除く東京都）※に所在する団体
※青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県
（２）助成対象者
特定非営利活動法人、社会福祉法人
（３）助成対象事業
社会福祉分野で活動する団体
※団体の基盤強化に大きく貢献すること、地域課題の解決に大きく貢献することなどを選考基準とします。



＜２＞助成金額
１団体100万円上限（総額1, 500万円）
＜３＞応募期間
2012年10月9日（火）から11月16日（金）まで

海外助成の募集～ASEAN加盟国の社会福祉団体を対象に

10月9日から11月16日までの期間、ASEAN加盟国で社会福祉活動をする非営利団体を対象に2012年度「海外助成」の募集をしました。助成金額は１件あたり100万円を上限とし、総額400万円の助成を予定しています。
2012年12月に開催予定の選考委員会において助成先を決定する予定です。



１．海外助成の概要
損保ジャパン記念財団は、国内で実施している助成制度を発展させ、海外（特に開発途上にある
国･地域）の社会福祉の向上を目的に、2010年度から「海外助成」を実施しており、今年度が３年目になります。当助成は、募集対象国に在住する日本企業の現地駐在員の推薦にもとづき、募集対象国において、社会福祉分野の非営利団体が行う活動を対象としています。

２．募集要項
＜１＞推薦者
募集対象国に所在する日本企業の現地駐在員
＜２＞募集対象
ＡＳＥＡＮ加盟国(ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム）に本部がある、主として社会福祉分野で活動している非営利団体
＜３＞助成金使途
助成対象団体が地域の社会福祉に資する活動（プログラム）を行うための資金
＜４＞助成金額
１件30万円～100万円（総額400万円）
＜５＞応募期間
2012年10月9日（火）から11月16日（金）まで


パソコンを使ってトレーニング（タイ）

第13回損保ジャパン記念財団賞講演会・シンポジウムを開催

7月1日(日)グランドアーク半蔵門　(東京都千代田区)にて、「損保ジャパン記念財団賞※」の受賞者記念講演会、シンポジウムを開催し、定員となる約150人にご参加いただきました。

※「損保ジャパン記念財団賞」は社会福祉の学問的探求を志向する多くの学者、研究者の研究意欲を促進し、わが国の社会福祉の発展に寄与することを目的として、優れた社会福祉学術文献を表彰する制度です。

第Ⅰ部では、著書部門受賞者 仁平 典宏氏（法政大学社会学部准教授）が、受賞著書である『「ボランティア」の誕生と終焉ー〈贈与のパラドックス〉の知識社会学』について講演しました。

第Ⅱ部では、シンポジウム 「ボランティア活動の本質はなにかー災害ボランティアの活動から一」をテーマにパネルディスカッションを開催しました。研究者や学生、企業・各種団体の担当者、被災地でボランティアに参加された方々などが参加されました。

参加者からは、「東日本大震災において災害時のボランティアの存在が大きくなったが、首都圏が被災地になった場合のボランティアの体制づくりはどうするのか、甚大な被害の中でも作業に追われず被災者に寄り添ったボランティア活動を展開するにはどうすればよいか、など今後の課題が見えてきた」「被災地で実際に活動されたパネリストの話は、ボランティアをコーディネートする際に大変に役立つと感じた」などの感想が寄せられました。
シンポジウム後には、懇親会が開催され、登壇者と参加者が和やかに歓談されました。



仁平典宏氏



シンポジウム

【シンポジウムにご参加いただいた皆様】

コーディネーター：白澤 政和 氏（桜美林大学大学院老年学研究科教授、日本社会福祉学会会長）
パネリスト　　：上野谷 加代子 氏（同志社大学大学院教授）
池田 昌弘 氏（東北関東大震災・共同支援ネットワーク事務局長、特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター理事長）
長谷部 治 氏（社会福祉法人神戸市社会福祉協議会、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議臨時委員）
コメンテーター　：仁平 典宏 氏（法政大学社会学部准教授、多摩ボランティアセンター長）


仁平先生と東日本大震災でボランティアをともにされた教え子のみなさん

損保ジャパン記念財団が協力させていただいた活動を紹介します。

≪シンポジウム「Walk Again 2012再生医療と脳科学」に協賛しました≫

NPO法人日本せきずい基金が主催する「Walk Again 2012再生医療と脳科学」（10月6日　東京国際交流館）に協賛、参加しました。
ips細胞など幹細胞研究が目覚ましく進展し、また脳科学の研究も大きく進展している中、脳科学と幹細胞生物学のコンビネーションが重度障害者の運動・感覚機能の再建を可能にしようとしています。このシンポジウムは、最先端の研究者がせきずい損傷により障害をもたれた患者家族に研究動向を語る場となりました。

≪第21回ボランティアフェスティバル三重に参加しました≫

『東日本大震災をうけ、再確認された地域社会のつながりの重要性』をテーマに9月29日、30日に三重県津市で開催された『全国ボランティアフェスティバル三重』の分科会「NPOの基盤強化」などに参加し、協力をしました。